

◆六番（尾崎充典）（登壇）まず、冒頭に報告がございます。

今、私は先輩議員の皆様のご配慮により、奈良県議会の厚生委員長を務めています。その厚生委員会で各派連絡会議の了承を受けて、(仮称)奈良県歯と口腔の健康づくりに関する条例の策定作業を行っています。

その調査の過程でわかってきたことを、少し県民の皆様にお伝えしたいと思います。

口腔、いわゆる口の中の健康を維持すると、想像以上によいことがあります。

例えば、妊婦さんの口の中を清潔に保って歯周病を予防すれば、早産とそれに伴う低体重児の生まれる確率が五分の一以下になるとの調査結果がありました。

また、歯周病は高齢出産やアルコール接種の七倍以上の危険率があるとの研究結果もありました。少子化で悩む奈良県としても、この事実は見過ごすことができません。

さらに、こんな調査の結果もありました。高齢者の一番の楽しみは、友人、仲間とおしゃべりや会食であるということです。おしゃべりや食事を楽しむためには、歯が丈夫であることの重要性は言うまでもありません。

八十歳で二十本の歯を維持して幸せな老後を送るための八〇二〇運動はご存じの方も多いと思います。

そして、何よりも驚く調査結果がありました。高齢者のうち、歯が二十本以上ある人の医療費は三分の二で済むという事実です。財政難に悩む市町村にとっても興味深い調査結果です。

この(仮称)奈良県歯と口腔の健康づくりに関する条例をよりよいものにして、県民の皆様は口腔ケアの重要性について理解が深まることを期待しています。

それでは、一般、代表合わせて通算九度目の質問を行います。

今回は、大きく二点の質問を予定しております。

まず一点目は、奈良県における経済対策について。雇用の創出と県内給与総額の上昇こそが、奈良県経済を救うをテーマに数点の質問をします。

先般、日本総合研究所の藻谷浩介さんの勉強会に参加しました。その中で、奈良県に対する提案を幾つか、ご紹介しながら、私の持論を交えて議論をさせていただきます。

高度成長期をはるか昔のことと理解しつつ、いま一度、そんな時代が来るのではないかと心の片隅であきらめきれずにいるというのが日本経済、そして奈良県経済のリーダーの皆様の本音ではないでしょうか。しかしながら、人口減少社会では絶対にあり得ません。

このほかにも、我々が既成概念や間違っただけの思い込みをしている事例が、的を得た正しい判断ができないことが多くあります。

まず、日本人はテレビや新聞報道をうのみにして、国際競争力が低下していると考えがちです。

しかし、パネル一と二をごらんください。

これらは、いずれも東日本大震災の前の財務省の国際収支統計二〇一〇年の公式なデータですが、日本は中国（香港を含む）に対して四兆円、韓国に対して三兆円近く、台湾にも三兆円を超える経常収支黒字を挙げています。また、お手元の資料にありますシンガポールでは二兆円近く、インドでは四千億円を超える、ドイツは一兆円を超える経常収支黒字を挙げています。

実は、サムスンの韓国からも、ホンファイの台湾からも、さらにはヨーロッパの工業国ドイツからも黒字をいただいているのです。日本にとってこれらの国はまさに、百貨店で言えば外商の上得意様です。

また、パネル二の下段の二を見ますと、日本のトータルの国際収支、つまり貿易収支と所得収支、サービス収支の合計は二〇一〇年において約十七兆円の黒字です。そのうち所得収支に見られる金利収入は十二兆円に上ります。日本は世界の金貸しと言っても過言ではなく、東日本大震災の復興予算十七兆円と比較すると、その金額がすごいことがわかります。この金利の多くは高齢者富裕層に支払われています。

日本の経済は凋落していると思いがちですが、実はこの経常収支の黒字額十七兆円は、バブルのとき、一九九〇年の約三倍にもなります。つまり、日本の国際競争力は今をもって世界で一番と公式な数字が言っています。

一方で、あまり知られていない別の事実もあります。

パネル三をごらんください。

世界から経常収支黒字をいただいている日本に対して、ほんの数カ国、天然資源輸出国でもないのに、対日貿易収支黒字を生み出している国があります。それがフランス、イタリアです。そして、その対日貿易黒字を生み出している理由が何かと いうと、実は皮革製品及びワインなどの嗜好品に見られる自国製の高級ブランド商品です。

私たち日本人は、日本国内にも質がいい商品があるにもかかわらず、フランスの水、エビアンを買い、イタリアのブランドバッグを買っています。一方で、フランスやイタリアも日本のハイテク工業製品を多く買っているにもかかわらず、日本人が買うフランス製ブランド製品の値段の方が圧倒的に高く、その値段の差がフランスやイタリアの対日貿易黒字につながっているという事実があるのです。

そのような事実を踏まえると、日本は国内の、そして世界じゅうの富裕層の購買意欲をそそる商品をつくることにシフトする必要があります。

幸い、我が奈良県は繊維製品や皮革製品などの軽工業分野で潜在的能力があります。奈良県にとってフランスやイタリアのブランドに勝てる商品やサービスを生み出せるかがポイントであり、海外においてフランス製品ではなく日本製品、しかも奈良ブランドを買ってくれるような状況をつくれるかに、奈良県の将来がかかっているとも言えます。

こういった軽工業を支える企業は大企業ではありません。例えば、企業立地においてもこうした特徴のある商品をつくれる中小企業への取り組みを強化することが、奈良県の未来の発展に必要だと思います。

また、日本の位置的にも近く、体質・体格の似通った東アジア、東南アジア、インド等の国々が豊かになれば日本の商品が売れ、ますます黒字がふえることが期待できます。実際に、韓国や台湾や中国に富裕層が増えるにつれ、日本の黒字がふえていますし、インドも急激に伸びてきております。

知事は早くから、東アジアとの交流に力を入れていただいておりますので、それがやがて奈良県経済によい効果が期待できると思います。

奈良県が、西安のある中国陝西省と韓国の忠清南道と友好関係を続けることにも大きな意義があると考えています。ただし、猪奥議員の代表質問でも指摘があったように、もったいない支出については検討をお願いしたいと思います。

奈良県では、アジアの購買力に対応する国際競争が可能なレベルの最先端製品、あるいはブランド志向を刺激し、ハイセンスで少量生産かつ質の高い地域ブランドの確立をすべきです。また、

奈良県が観光サービスのレベルを上げていくことは、これらの国の富裕層を観光の上得意様として迎え入れることにもつながります。アジアの富裕層の観光客、あるいはそれを越えた短期定住者の受け入れが進めば、観光県である奈良県の付加価値が高まると考えます。

次に、国内マーケットについて認識を整理したいと思います。

国内においては、高齢者の購買力が増加しています。

一例として先般、京都府でシニアのファッションショーが行われました。七十七歳の女性を筆頭に、十五名の素人シニアモデルさんがプロさながらにランウェイを歩かれたようです。中には、つえをついて歩かれた方もいたようです。

また、カタログ販売のニッセンも、二〇一一年より六十歳以上の専用カタログを創刊しました。第一生命経済研究所の試算では、六十歳以上の支出は日本の個人消費の約四五%との報告もあります。加えて、二〇一二年、六十五歳以上のマーケットは三千万人を超えました。国内の高齢者に対してもハイセンスで少量生産、高品質の地域ブランド商品は極めて強い訴求力があります。

また、日本では強力であるが、潜在的なマーケットがあります。専業主婦に代表される有償労働をしていない女性です。

このマーケットは経済活動、企業活動、あるいは政治活動での男女共同参画を進めることで顕在化します。女性には必要なもの、欲しいものがたくさんあり、みずからが有償労働で得たお金は、パートナーに気がねなく、これは私が稼いだ分だから使っていていいでしょうと言えるようになると、これまで我慢していた分が消費につながります。

一方、奈良県でも人口減少社会が急激に進行してきています。

実は、人口の減少が内需不振、つまりは不景気の最大の原因です。消費者のパイがやせているのですからどうしようもありません。

しかし、若い女性の就業率が高い県ほど出生率が高いという事実があります。女性の就労環境の改善に積極的に取り組めば、奈良県においても検案される少子化対策に効果的と考えます。

先ほど述べた思い込みにもつながりますが、内需不振の原因は世間のムードで、地域間格差や円高のせいにしては的外れです。

パネル四の一に示していますように、首都圏もじり貧の状態です。

ちなみにパネル四の二をごらんください。

奈良県、残念ながら首都圏と同じく、売上は伸び悩み、床効率も低下しています。

また、円高は輸出に不利ですが、パネル二の二、下段で示したように、震災前の貿易黒字は黒字です。しかも、内需を考えれば石油をはじめ原料の多くを輸入に頼っている日本で、仮に極端な円安になれば、ガソリンの高騰など国内の影響は半端ではありません。

女性の経済活動への参画について話を戻します。

国税庁の民間給与実態統計調査によって、男女の賃金格差は大企業ほど拡大傾向にあることがわかりました。

もともと、日本の男女賃金格差は世界で最も大きい部類にあり、大企業はその傾向に拍車をかけていることとなります。

二〇一一年の調査によると、資本金二千万円未満の中小企業での男女給与格差が、女性は男性の五五%であり、資本金十億円以上の大企業は四五%とその差が拡大します。女性の賃金は、男性の半分程度に過ぎない現状があります。

私は、これらの資料を勉強するにつれ、テレビや新聞報道をうのみにせず、数字や総数のデータを確認して現場を見る習慣が必要であるように思いました。

そこで私は、奈良県経済を活性化させるため、県が目指す方向として、女性の社会進出に伴う潜在的消費を喚起することとし、そこに力を注ぐ企業を支援することが重要だと考えます。

さて、これまで述べてきたことを総括的に整理し、雇用の創出と県内給与総額の上昇こそが奈良県経済を救うというテーマで三点質問します。

奈良県では、アジアの富裕層や国内高齢者の購買力に対応する国際競争が可能なレベルの最先端製品、あるいはブランド志向を刺激し、ハイセンスで少量生産の地域ブランドの確立をすべきと申し上げました。

別の観点でも、このような取り組みは重要な意味を持ちます。

企業はこれまで、人件費を削減することで利益を上げてきました。その過度な人件費削減競争は、所得の減少を生みました。そうすると、消費性向が高い若年層でさえ、消費にお金を回さなくなります。その結果が昨今の国内・県内の経済の停滞の招待です。お金を使わなければならない層が使えるようにすることが、奈良県経済の活性化につながります。

したがって、県民自身が使うお金、いわゆる県民総所得をふやす工夫を行うために、企業も人件費を上げる方向性にシフトチェンジしなければなりません。人件費を上げる奈良になるためにも、少量生産、かつ質も高い地域ブランドの確立や観光の付加価値を高めるべきです。

さらには、デフレの根源でもある生産年齢人口の減少に伴う内需の縮小への解決策を考える際に、女性の雇いを促進したり、専業主婦層に代表される有償労働をしていない女性の力を経済活動に生かす取り組みを積極化することが、極めて重要だと考えます。

女性の雇いを推進することは、奈良県の内需を拡大し、人件費総額を上げることにつながります。女性の雇いの前に高齢者の雇いをとの声もあるとは思いますが、女性の雇用は内需の拡大効果が高いと考えます。

そこで、産業・雇用振興部長にお伺いします。

人件費を上げられる奈良になるため、アジアでふえる富裕層や国内高齢者をターゲットにした当地独自の生活文化に支えられた、ここでしかつくりえない、センスがよく少量生産、高単価の地域ブランド商品の確立に向けた取り組みを行うべきと考えますが、いかがでしょうか。お答えください。

また、観光局長にお伺いします。

アジアの富裕層の誘客への取り組みとして、外国人観光客、短期定住客の受け入れを積極化すべきと考えますが、いかがお考えでしょうか。

また、ソフト施策及び施設整備の両面における具体的な取り組み状況について、お答えください。

次に、こども・女性局長にお伺いします。

私は、女性の雇いを推進することは、奈良県の内需を拡大する効果があると考えます。

これまでも女性の就労支援を積極的にやっていただいているとは思いますが、これまで以上に女性の就労が当たり前となるような施策に重点的に取り組むべきとは考えますが、いかがお考えでしょうか、お答えください。

続きまして、本県における骨髄移植医療に関する質問をさせていただきます。

私は先日、香芝市で行われました香芝ふれあいフェスタに参加しました。その会場に 献血バスが来ていましたので献血をいたしました。また、同時にボランティア団体なら骨髓バンクの会がドナー登録会を行っておりましたので、骨髓のドナー登録も同時に行いました。若干、時間を要した感はありますが、登録自体は非常に簡単で、献血と同時であれば特別に採血をする必要もなく、事前に資格を持った 説明員が詳しく説明してくれるので、何の不安もなく登録することができました。

お手元にチャンスというパンフレットをお配りしていますので、議員の皆様もドナー登録のご協力、よろしく願いいたします。

さて、白血病・悪性リンパ腫・再生不良性貧血、重い血液疾患、血液難病を抱える患者の方々にとっては、骨髓等、造血幹細胞移植による治療のみが、唯一の命綱であり、善意と任意により造血幹細胞提供者、以下、ドナーと呼びますが、ドナー の出現を心待ちにしておられるところです。しかし、これも周知のこととは思いますが、白血球の血液型であるHLA型（ヒト白血球抗原型）が適合する確率は、同父母の兄弟姉妹間でも四分の一、非血縁者になると数百分の一から数万分の一にまで下がると言われています。

移植を希望する患者の方々すべてに移植が可能となるためには、日本においておおむね百万人のドナー登録が必要とのことです。

骨髓移植推進財団の発表によりますと、平成二十四年十月末現在の登録者数は四十二万一千八百七十五人であり、まだまだドナー登録者をふやす必要があると強く感じます。

ところが、奈良県の状況は登録対象年齢の十八歳から五十四歳の人口に対する登録者 数比率は平成二十四年十月末で千人当たり三・九四の長野県に続き、四・一八と全国都道府県でワースト二位の数字であり、全国平均の七・〇二を大きく下回っています。残念ながら、本県が移植医療の先進県であるとは言いがたい状況です。

では、その数字が最も高い県は、二十七・九一という驚異的な数字を出している沖縄県でした。二位の福島県が十五・八四ということを考えれば、沖縄県の数値が突出して高いことが伺われます。本県と比べて六・六倍以上の差が生まれるのはなぜでしょうか。

移植医療等を敬遠する保守的な県民性という漠然とした考察だけではなく、ここまで大きな開きが出るには何らかの原因があるのではないかと考えました。

これにつきまして、なら骨髓バンクの会のメンバーの協力を得て調査したところ、原因として考えられることを二点、発見しました。

一点目は、骨髓移植推進財団主催のドナー登録だけを行う単独型登録会は、なら骨髓バンクの会や行政と協力し、平成二十一年より行われているとのことです。これには医師、看護師の帯同が必要であり、かつその医師らが〇円ボランティアはだめだと、労働基準監督署から言われており、行政の協力が必要ですが、年一回の開催にとどまっています。

二点目は並行型登録会、これは献血と同時に行われるものですが、私が受けた分です。本県の日本赤十字社、奈良県赤十字血液センターの場合、同時と言っても献血バスの外でボランティア等が説明をする形を取るの、切り離されているのです。

これは、沖縄県に限った話ではありませんが、調べてみると他府県では、献血の待ち時間や休憩時間に血液センターの職員がドナー登録の説明をし、ドナー登録に必要な検査用・検体保存用ミニ試験管、説明用冊子、登録用紙のセットを献血バスの中に常備しているようです。

一方、沖縄県の場合でも、単独型登録会を廃止し、ボランティア団体や患者の家族と協力し、年五百回以上実施されるようになり、ドナー登録者が飛躍的にふえたとのことでした。

このようなことを踏まえ、なら骨髄バンクの会は、本県の献血バスでも登録キットをバス内に置き、血液センター職員が積極的にドナー登録を進めていただけるよう働きかけているのですが、実現していないようです。

そこで、骨髄移植医療について、医療政策部長にお伺いします。

骨髄移植のドナー登録だけを行う単独型登録会や、献血と同時に登録を行う並行型登録会を積極的に展開するなど、ドナー登録の総数増加に効果的な取り組みをふやす必要があると考えますが、いかがお考えでしょうか。お答えください。

以上で壇上の質問を終わります。(拍手)

◆六番（尾崎充典） ご答弁ありがとうございました。

一問目の経済対策については、提案を少しさせていただきたいと思います。

EUではすべての上場企業の非常勤役員に占める女性の割合を四十%以上にするようにというような指令が出されたようです。オランダモデルが成功した、それを機にそういう展開をされているようでございます。

また、観光なんですけれども、イスラム圏の宗教に配慮した、食べ物なんかを考えたり、礼拝をする場所をつくったりというような取り組みの旅行社、これは大阪府にあるようなんですが、そういったところの取り組みも進んでおります。

そういったところの取り組みを奈良県でも喚起して、そういう新たな提案をしてくれるところに対して、例えば男女共同参画推進賞とか、観光奨励賞とか、何かそういうお褒めさせていただくというような、アピールさせていただくようなそういう取り組みをお願いしておきたいと思えます。要望です。

高城医療政策部長には再質問、させていただきます。

奈良県のドナー登録者数が全国でワースト二位というのはとってもいけない状況だと思えますので、医療政策部長は厚生労働省から来ておられるというふうに聞いております。また、厚生労働省の局長からの通知なり、また今回、いわゆる法律が、根拠法ができたということもあり、在任中に何とかしてこの順位を平均値に近づけるように頑張ってください、そういう決意を述べていただきたいと思います。これは質問、お願いします。

◆六番（尾崎充典） ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。

最後に、思い込みの事例を紹介して終わりたいと思います。

沖縄県は、皆さんもご存じのように失業率が高く、有効求人倍率も非常に悪い状態、低い状態でございます。しかしながら、働く人の総数は、実はふえているようです。これは数字のマジックなんですか。総数がふえていると、その結果、当然のように小売り販売もふえているようでございます。

生意気に、私、話をしておりますが、私もそういう思い込み症候群の一人でございます、今後は県民の皆様にご自己研さんの努力をお約束させていただきまして、質問を終わりたいと思えます。ありがとうございました。